

～帝国書院Webサイト会員限定コンテンツ『地図帳の観光読みを促す指導の手引き』の紹介～



●名桜大学国際学部 特任教授・玉川大学 名誉教授 寺本 潔

“地図帳って、社会科で登場する場所の確認をするときに使うだけでしょ?”とっていませんか。実にもったいないです。もっと丁寧に読み取ってみると、随所に面白い工夫が見つかります。帝国書院がWebサイト会員限定で公開している『地図帳の観光読みを促す指導の手引き』は、地図帳の新たな活用場面と魅力にあふれています。

1 観光の重要性とそれを支える人材

少子・超高齢化と人口減少に伴う我が国の経済力の低下を、観光振興によって補っている状況がはっきりとしてきました。外国人の旅行消費額は既に8.1兆円(2024年)に達し、日本人のそれ(25.1兆円)と合わせれば33兆円を超え、観光産業は成長産業の仲間入りを果たしています。地方では観光による交流人口増への期待が膨らんでいます。地域資源に磨きをかけ誘客を果たすには、観光人材の育成が不可欠です。地域の魅力を価値に換える発想や企画を生む人材には、客目線で地域や産物を捉え直す思考(マーケティング)が求められます。さらに、客を出迎える側だけでなく、視野を広げ出掛ける側(旅行者)としての資質の形成も大事です。そのような意味で令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』(以下、地図帳)は

市や自県、地方や国の観光価値に気づかせ観光振興と旅心を育む教材にもなります。

2 地図帳の「観光読み」がなぜ必要なのか

理由は次の①～③です。①地図帳に掲載されている地勢や気候、産物、交通、各種の地名は発問や指示を少し工夫するだけで、それらが観光資源や観光スポットに見えてくるからです。②自分が旅行する側となり「観光読み」をすることで、興味ある国内外の場所が旅の目的地(ディスティネーション)に思えてきます。③地図帳から土地の風景を想像したり、産物記号を拾い上げることで旅心を覚えたり、気候と絡む緯度や移動距離・標高を測ったり、移動で利用する交通を読み取ったりするなど、観光という行為を想像することで、地図帳でしかできない知識や技能が形成できます。

具体例を示すと、①に関しては4年の事例で登場するワークシート「観光の花びら」(図1)を用い自市や自県の魅力を整理することで、地図帳に記載の事柄に対し観光資源としての捉え直しが促せます。これは②で指摘した、旅の目的地として国内外の場所を意味づけることにつながります。特に日本列島の自然は、北はオホーツク海の

図1 観光の花びらで地域の特色をつかもう ワークシート

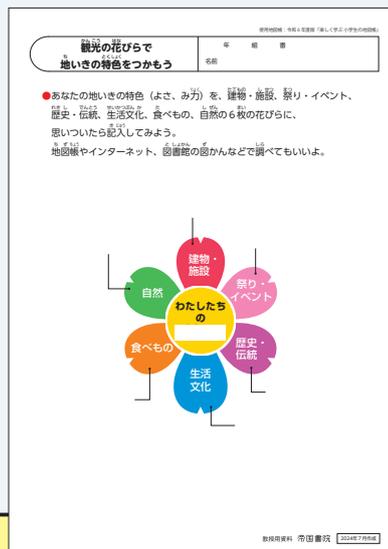


表1 『地図帳の観光読みを促す指導の手引き』の内容

学年	タイトル	ワークシート
3年	単元「市の様子」は「場所による違い」を「観光読み」に組み替えて1日観光ツアー立案で 一愛知県西尾市を例に	ぐるっと〇〇1日ツアー
4年	デジタル地図帳で産物記号の場所当てクイズを楽しみ「観光の花びら」ワークから国土や自県の観光資源に着目する学びを	産物記号の場所当てクイズ回答表 観光の花びらで地いきの特色をつかもう
5年	日本の気候と地形の特性を観光資源ととらえる視点と5つの観光行為に対応した仕事理解(キャリア教育)のすすめ	観光を支える仕事を考えてみよう
6年	引き算で街の歴史にタイムトラベル&野生生物・名曲の地を訪ねる外国への旅	東京と江戸の地図をくらべてみよう

